

大津けいはん タイムス

「大津けいはんタイムス」を手にとっていただきありがとうございます。
本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を
目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。

★「大津の京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関と
しての京阪電車大津線（京津線・石山坂本線）の利用促
進を図ることなどを目的に設立された市民団体です。



盆梅の名所が誕生

盆梅と言えば長浜が有名だが、大正初期に中ノ庄駅近くの生駒
家で、「梅仙窟」として盆梅展が開かれていた。当時大津は観光
に力を入れ始めた頃で、琵琶湖の大型観光船や近江八景めぐりと
ともに、京阪神からの観光客の人気を集めたという。大津市歴史
博物館の木津勝さんによると、丹精込めて育てられた盆梅は、当
時の当主亡き後、大谷駅付近にあった料亭「八新」に引き継がれ
たという。これらの盆梅は現存しないが、「梅仙窟」時代の絵葉
書から趣のある風格を感じとることができる。雄大な湖の観光と
盆栽の小さな宇宙をともに愛でる大正初期のロマンを想う。＝写
真①は梅仙窟の盆梅「不二」の絵葉書（個人蔵）

映画券つき往復券

大津で映画が上映されたのは明治末といわれ、無声映画から音の出るトーキー映画に発
展、大正から昭和30年代まで大衆娯楽の主役だった。大津にもいくつかの映画館が誕生し
たが、石場駅近くの芝居小屋から出発し、1920(大正9)年頃に映画上映を始めた「帝国館」
もその一つだ。石場で酒店を営む北川庄一さん(88)は、少年の頃見た「丹下左膳」を今
も思い出すという。1937(昭和12)年京阪電車と提携してこの入場券と電車往復券付チ
ケットは30銭で売り出されたと聞く。映画の集客力に魅力があった時代を象徴している。



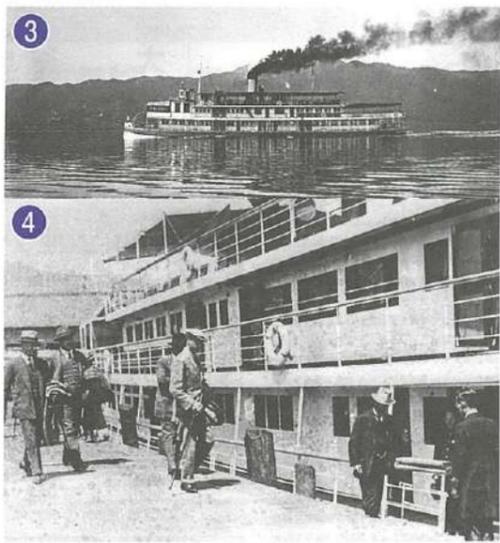
その後「帝国館」は変遷を重ねて昭
和38年に閉館した。現在その跡地に
マンションの建設が進んでいる。＝
写真②は昭和10年代の帝国館（大津
市歴史博物館蔵）



大津の町と1世紀

大津の町々を結び、京都とつなぐ京阪電車大津線は今年度
で開業100周年です。札ノ辻～京都三条間が1912(大正元)
年8月15日、浜大津～膳所本町間が翌年3月1日に開業し
ました。いま、電車は記念のヘッドマークをつけて町を走っ
ています。大津の町と大津線の、この1世紀をたどります。

英皇太子乗り評判



湖上遊覧の幕開け
は琵琶湖汽船の前身、
湖南汽船の1903(明
治36)年「近江八景
めぐり遊覧船」の就
航だった。その後
1922(大正11)年、
太湖汽船が定員約
1,000名の豪華で優
美な「みどり丸」を
建造した。処女航海
には英国皇太子(後
のエドワード8世)が
乗船され、当時の「滋
賀日報」は「絶えず
甲板に立ち給ひ琵琶
湖の風景を飽かず眺
め給ひし…」と大見

出しで伝えている。そのニュースが評判を呼び、遊覧客が京阪神から殺到し大
変な盛況ぶりとなった。汽船会社はその後合併を重ね現在の琵琶湖汽船に集約され、今年で125年を迎える。湖上から今も昔と変わらぬ比叡山、比良山、三上山などの雄姿を大パノラマで楽しませてくれている。＝写真③は「みどり丸」。同④は「みどり丸」に乗船する英国皇太子(いずれも琵琶湖汽船提供)



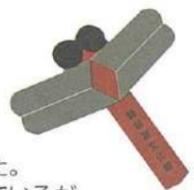
■現存最古 今も現役 70型電車は大津線で8番目の型式として登場した車両。60型が大坂天満橋～大津間を直通運転するため1934(昭和9)年に開発された有名な「びわこ号」(2面参照)だが、実は70型の方が古い。70型は大津線開業前の1910(明治43)年9月製造、この年に開業した京阪本線の1型として造られた。100型に改良された後、70型として昭和20年前後に大津線用に改造、投入されたが、昭和24年の四宮車庫の火災で大半を焼失。ただ1両残った72号車も昭和42年に客車としては引退した。だが、寝屋川車庫で車両を移動させる入れ換え車として現役だ。＝写真⑦は昭和32年ごろ、札の辻辺りを走る72号車、写真⑥は現在の72号車の姿。

湖上のとんぼたち



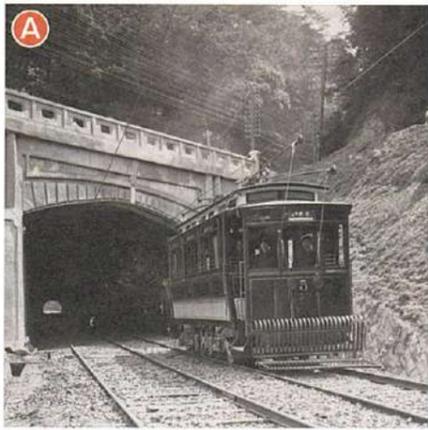
■赤とんぼ 高度成長期と言われる1961～72(昭和36～47)年には、浜大津の湖岸から水上飛行機が発着していた。戦前に「天虎飛行研究所」(現西武大津店前で昭和10～18年に運営された飛行士の訓練施設。テントラ飛行場の愛称で親しまれた。)が一時期行っていたが、一般の人が琵琶湖や京都の景色を楽しむためのものだ。大津を訪れる観光客は船のほか、飛行機でも遊覧できた。地元の人たちは「赤とんぼ」と呼んだ戦前の飛行機や、湖上を遊覧する水上飛行機の姿を深く記憶にとどめている。
■とんぼの城 また同じ昭和36年に開館した打出浜の「滋賀県立琵琶湖文化館」は、初代館長 草野文男氏の「みんなが郷土の文化に親しみをもつように」との思いで、博物館・美術館・水族館としての役割だけでなく、食堂や室内プール、熱帯植物園などのレジャー感覚を備えた

ものになった。イベントとして海女のショーや鶴飼いの実演なども行われた。夜になると本館屋上のとんぼが目を光らせて回転し、灯台の役割を果たした。このため同館は「とんぼのお城」とも呼ばれた。2008(平成20)年より休館となっているが、多くのファンに向けて他施設での展覧会や講座などを継続中。屋上の「とんぼ」のいわれなどが掲載されている「あきつブログ」は要チェック。草野館長を初め、いま昔の人々の熱い気持ちが伝わってくる。＝写真⑧は昭和36年撮影。手前は水上飛行機。奥に琵琶湖文化館が見える。右上は、琵琶湖文化館の開館記念に当初の入館者に配られたしおり。



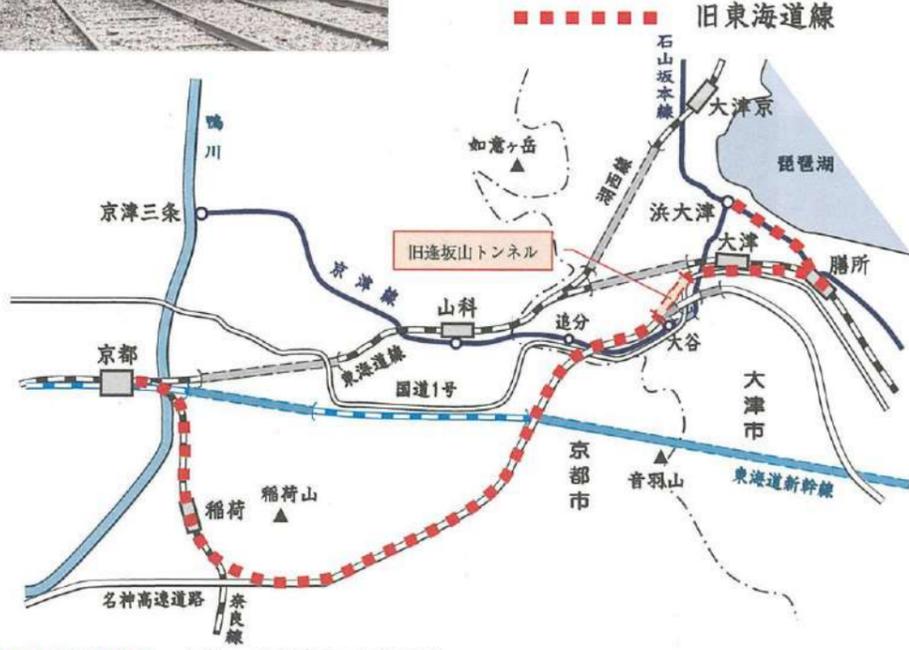
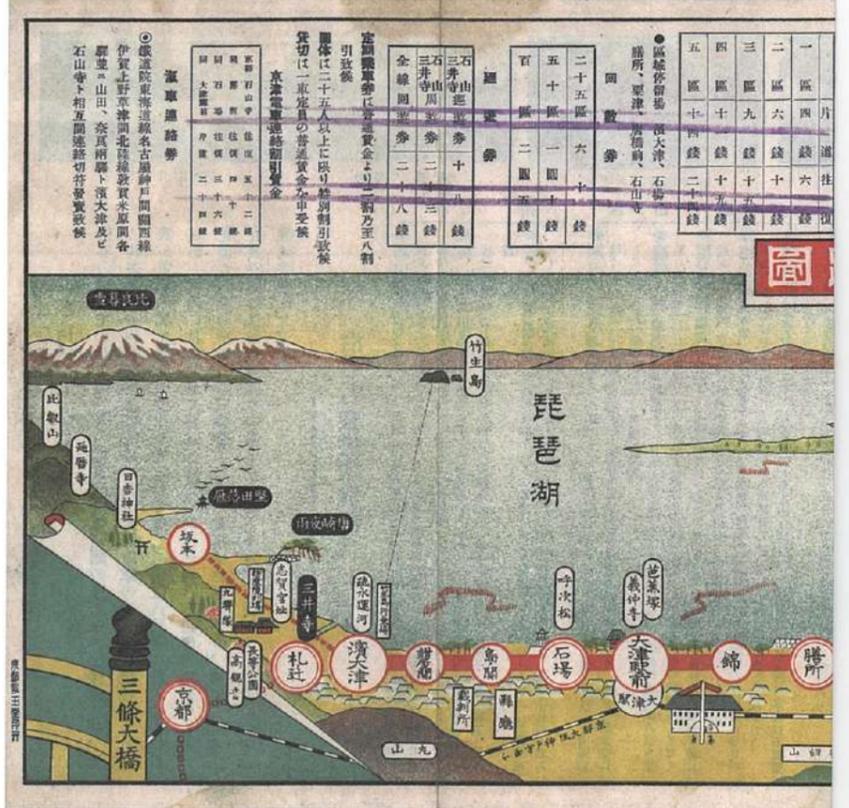
町も電車

大津線100年



今年度で開業100周年の京阪電鉄大津線は、京津線（浜大津～御陵間7.5km）と石山坂本線（石山寺～坂本間14.1km）からなる。それぞれ別会社が敷設、後に京阪電鉄と合併した（下の路線開業年の図や年表参照）。札ノ辻～京都三条間は京津電気軌道が敷き、京阪電鉄と合併後に浜大津まで延びた。写真Aは京津線開通直後、逢坂山トンネルを京都側に抜け

る京津1型電車（京阪電鉄蔵）。三井寺～石山寺間は大津電車軌道、三井寺～坂本間は琵琶湖鉄道汽船（大津電車軌道と太湖汽船が合併し設立）が敷いた。この鉄道部門は京阪電鉄と合併、京阪電鉄が石山寺～坂本間の軌道も継承した。



■遠回り官営鉄道 大津～京都間の官営鉄道（後の国鉄・JR）は、上図のように遠回りしていた。これは、その頃蒸気機関車が急勾配を登れず、トンネル技術も発達していなかったため。その上、京都駅が当時の繁華街から離れていた。官鉄線も1921（大正10）年から現在のルートになった。



■大正初期の石坂線路線図（個人蔵）が全通したころ、大津電車軌道が発行。



■原敬の特許状 大津・京都の財界人らが双方の中心部を直結させる鉄道敷設を請願、1907（明治40）年、内務大臣原敬から特許状（写真B、滋賀県蔵）を得た。以後、京津電気軌道（株）設立、逢坂山トンネル着工、客車12両製造など京津線の建設が進んでいった。



■3社の浜大津駅 大津電車軌道（後に京阪電鉄）は膳所～浜大津間の大部分で官営鉄道線を借りた。写真Cは昭和12年当時の3社の浜大津駅。手前は京阪電鉄、背後の建物は江若鉄道、煙は官営鉄道の蒸気機関車から。



■びわこ号 名車「びわこ号」は、琵琶湖遊覧客のために天満橋～浜大津間を直通72分で結んだ。カーブの多い京津線で高速運転するため、連結部分に台車をつけた日本初の連節車。1970年まで活躍。写真Dは、ポールを揚げて蹴上駅付近を走る「びわこ号」。



■最後の地上運転 1997（平成9）年10月12日から京都市営地下鉄東西線に乗り入れし、京津三条～御陵間が廃止された。写真Eは、廃止前日、京津三条駅付近を走る80型電車。80型電車もこの翌日に廃車となった。

年	月	日	区間
明13	7	15	現・東海道線 大津（現・浜大津）間～馬場（現・膳所）～京都開業
明15	5	1	太湖汽船（現・琵琶湖汽船） 大津～長浜間鉄道連絡船開業
明22	7	1	現・東海道線 馬場～米原間開業、大津～馬場間は貨物支線に
明43	3	28	京津電気軌道創立（資本金150万円）
明44	1	8	大津電車軌道創立（資本金50万円）
大元	8	15	京津電気軌道 三条大橋（後の京津三条）～札ノ辻間開業
大2	3	1	大津電車軌道 大津（現・浜大津）～膳所（現・膳所本町）間開業
	5	1	〃 膳所～別保（現・粟津）間開通
大3	1	12	〃 別保～石山駅前（現・京阪石山）間開通
	1	17	〃 石山駅前～唐橋前間開通
	2	15	〃 唐橋前～蛸谷（現・石山寺）間開通
大10	3	15	江若鉄道 三井寺～観山間開業
大11	5	7	大津電車軌道 浜大津～三井寺間開通
大14	2	1	京阪電鉄が京津電気軌道を合併
	5	5	京阪電鉄 札ノ辻～浜大津間開通
昭2	1	21	大津電車軌道が太湖汽船を合併、琵琶湖鉄道汽船を設立
	5	15	琵琶湖鉄道汽船 三井寺～兵衛前（現・別所）間開通
			〃 山上（現・皇子山）～松ノ馬場間開通
	8	13	〃 松ノ馬場～坂本間開通
	9	10	〃 兵衛前～山上間開通
昭4	4	11	京阪電鉄が琵琶湖鉄道汽船の鉄道部門を合併、蛸谷～坂本間の軌道を継承
昭6	1	1	江若鉄道 浜大津～今津間全通
	2	20	京津線古川町～蹴上間の線路を三条通りに移設
昭9	4	2	「びわこ号」天満橋～浜大津間 72分直通運転開始
昭44	11	1	江若鉄道 浜大津～今津間廃止
昭49	7	20	国鉄（後のJR）湖西線 山科～近江塩津間開業
昭56	4	12	京津線・石山坂本線を統合した現・浜大津駅使用開始
平9	10	12	京津線京津三条～御陵間廃止、京都市営地下鉄東西線御陵～京都市役所前間乗り入れ
平18秋			「電車と青春 21文字のメッセージ」第1回全国募集
平20	1	16	京都市営地下鉄東西線乗り入れ区間を太秦天神川まで延伸

●数字は開業時の名残りポイント

地下鉄東西線開業に伴い平成9年廃止

車も変わった

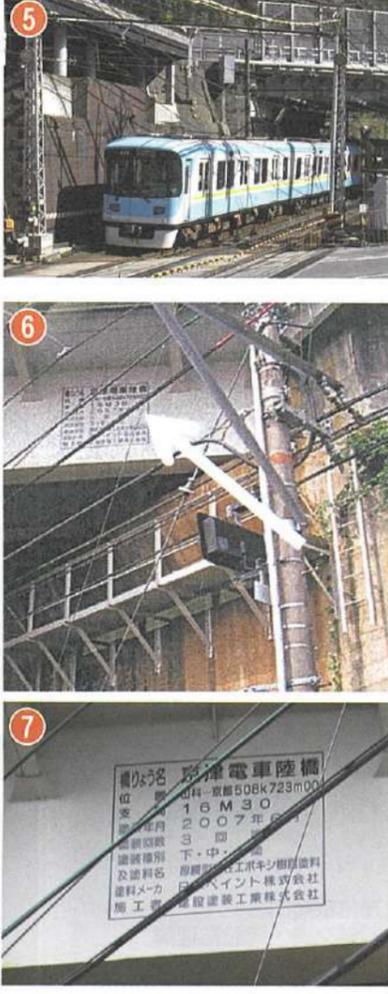


1914(大正3)年に浜大津~石山寺(当時は蛸谷)間沿線の観光名所として近江八景が紹介されている。



京阪電車知って得する! まめ知識

開業当時の名残り



大津線開業当時の名残りが路線のあちらこちらで見られる。

石山坂本線=写真①は浜大津~島ノ関間の紺屋ヶ関踏切付近。官営鉄道の線路はこの付近で京阪電鉄の線路と分かれ、浜大津で江若鉄道とつながっていた。右側の線路が官鉄線の名残りであり、すぐ脇には旧琵琶湖岸の石積みが見られる。島ノ関駅付近の橋梁には架橋したのが鉄道省であることを示す銘板が残っている。**写真②③**は島ノ関駅ホーム下にある吾妻川橋梁のもの。**写真④**は石場駅付近の線路柵。古いレールを再利用して、刻印から1911年製や1912年製のものもある。

京津線=写真⑤は上栄町~大谷間。京津電気軌道が開業したころ、官営鉄道は、初めて日本人だけで貫通させた旧・逢坂山トンネルを通るルートで、この付近で京津線を橋で越えていた。左斜面にレンガ積みの橋梁台が残っている。**写真⑥⑦**は京阪山科~御陵間で京阪電鉄線をまたぐJRの鉄橋。架橋当時は京阪電鉄線ではなく京津電気軌道線だったので、橋の名は「京津電車陸橋」となっている。

■高かった開業運賃 京津電気軌道が開業した大正元年当時の運賃は、全線を8区間に分け、それぞれが2銭だった。つまり、上関寺~札ノ辻が1区2銭で、三条大橋~札ノ辻間は8区16銭だった。ちなみに、京阪電気鉄道の天満橋~五条間は40銭だった。現在では、同等距離の運賃は京阪線で400円、大津線で310円だから、京津電軌の方が割安だったようだ。一方、貨幣価値は当時のかけそばが3銭、あんぱんが1銭であったこと、教員の初任給が12円程度だったことからすると、約1~2万倍の開きがある。仮に1万倍として現在の貨幣価値に換算すると、三条~札ノ辻間が1,600円、天満橋~五条間が4,000円となり、当時の鉄道運賃はかなり高かったようだ。



「電車と青春 21文字のメッセージ」 入選作品をモチーフに短編3部作 NHKドラマ『石坂線物語』

今年度、NHK大津放送局で石山坂本線を舞台にした短編ドラマ3部作の制作が進んでいる。

作品のモチーフになっているのは、大津から全国公募した「電車と青春 21文字のメッセージ」の過去入選作品だ。去る8月8~10日の3日間、第1作のロケが市内各所で行われ(写真)、当会もエキストラ集めや地域情報提供など協力をした。8日は琵琶湖大花火大会、9日は穴太駅や走行する電車を使っての撮影。猛暑のこの日、汗だくでそばきと動き回るスタッフから熱意があふれる。夕刻からは錦織車庫での撮影にあわせて「見学会」が開催された。大がかりな機材が持ち込まれ30名を超えるスタッフによる撮影は、深夜に及んだ。

第1作の県内放映は9月、第2作は12月。第3作は、今年の入賞作品をモチーフに物語を構築し、来年3月に放映の予定だ。なお3月下旬には近畿圏内にエリアを広げて総集編を放送予定。ドラマ制作で地域の活性化やPRを目指すこの取り組み、当会の趣旨と重なるところが多いと感じた。

■京阪電鉄が記念イベント

- 記念の「湖都古都大津 1 day切符」発売中。券面に「びわこ号」などを印刷。
- 4月から京津線・石坂線とも記念ヘッドマークを付けて走っている。
- 石坂線で、マンダリンオレンジとカーマインレッドの特色色に塗った電車を運行。かつてこの色の車両が活躍していた。
- 駅や車両などの古い写真のパネル展示。駅や車内のほか、11月4日までスカイプラザ浜大津6階。12月からパルコ大津店で。
- 11月3日(土・祝)、錦織車庫で「大津線感謝祭」開催予定。古い保存車両に会えるほか、パネル展示もする。

京阪沿線でがんばる人たち

浜大津で90年 3代続く 歯科医院



2代目石田喜之さんと3代目益世さん



浜大津駅から歩いて数分、上品な色遣いの洋館が出迎えてくれる「石田歯科医院」。奥の和風の母屋と共に1937(昭和12)年築で、国の登録有形文化財に指定されている。親子3代続く歯医者さんだ。その2代目の石田喜之さん、石坂線が全線開業した翌年の1928(昭和3)年生まれで東京歯科大学(現東京歯科大学)在学中以外はずっと当地にお住まいだ。

大津は昭和初めまで物資の集積地で、自宅周りに米問屋やそれを扱う運送屋が多かったそうだ。しかし、戦争中に国策で日本通運に吸収合併となったり、また旧の大津市役所や電話局が近くにあった為、重要な施設を類焼から守るため周辺の民家は疎開させられ取り壊されたりと様変わり。今のお宅は何とか難を逃れたらしい。

初代は石田松之助さん、写真⑧の表札に

「Dental Office. Dr. M. Ishida.」の英字の飾り文字が見える。旧字体の漢字で右から書かれているものと対照的だ。徒弟制度であった歯医者で、大津市内初めての歯科学学校卒の開業医だったとか。2代目も新しもの好きで、戦後いち早くアメリカ製歯科用コンパクトレントゲンや歯を削る高速タービンドリルなどを備えた。戦前は足踏みペダルで動くドリルだったらしい。また、昭和30年代半ばにBGMを流し、今では当たり前となった時間予約制を始めた。当初、同業者から若造が予約を取るとは生意気だと批判された。実は初代も行った時があったが、時期尚早だったのが散々な結果だったらしい。当時の患者の中には、元戦闘機乗りだった水上飛行機の操縦士も。

京阪電車の思い出は、旧制膳所中学の通学。廃止となった大橋堀駅から京阪膳所駅まで乗車、膳所本町駅までの2駅間は体を鍛えるため歩けただったが、戦争中は全部歩けなくなったこと。

また、明治に官営鉄道が浜大津まで路線を延長する際、蒸気機関車みたいな物騒な物をまち中に通す訳にはいかんと町衆が騒ぎ、湖岸を埋め立て今の線路を引いたと伝え聞く。

趣味は長唄、お座敷遊びにと始めたのが高じて名取りとなるまでに。京都南座素人顔見せや祇園甲部歌舞練場などに出演したこともある。今年で開業90周年となるが、同じ歯科大に通う孫が4代目となってくれればと笑顔で語ってくれた。

伝統校の新興「かるた班」

競技から「諦めない心の強さ」学ぶ

膳所本町駅から2分ほど歩くと、1898（明治31）年開校の「滋賀県立膳所高校」が見えてくる。

膳所高校では自主と自立の精神を大事にしており、班活動でも勉強でも生徒が自ら考え成長していくことに重点をおいている（ちなみに、昔からの呼びならわしを引き継ぎ、部活動のことを班活動と呼んでいる）。これは学校行事にも特色が出ており、「湖風祭」という学園祭では学年を縦割りにして3・2・1年生が一つのチームとなり、3年生を中心に生徒が主体の企画を築きあげている。

また学業の面で注目されることが多い膳所高校だが、

滋賀県立膳所高校

沿線の

学校へ
行こう

実は班活動への入部率が90%を超えている。そんな盛んな班活動から、今回は「かるた班」に注目してみた。ここでの「かるた」とは、百人一首を使った競技かるたのことである。

かるた班は、1985（昭和60）年頃、当時近江神宮で行われていた百人一首の日本選手権に出たいという生徒の意見から、最初は愛好会として誕生した。それから途切れることなく活動し続け、現在20名の班員が活躍している。有段者も多く全国各地で行われる大会へ



年数回参加するほか、全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門で全国ベスト16になったこともある。月・火・金の週3回練習（写真）では、試合形式を模した練習や札を早くはらう為のはらい練習などを行っている。高校から競技かるたを始める初心者の生徒も多く、最初の数ヶ月は先輩とマンツーマンで練習を行うようだ。

実際に競技かるたをやっている生徒達は、読手の言葉を聞き、札の字を見て判断しているのではなく、字の上に存在する何かを感覚で感じることが魅力の一つだと言っていた。そこには経験しないと見えない世界が広がっているようだ。

筆者が取材に訪れた日は、「大津あきのた会」や「日野三笠会」といった、一般の団体とも一緒に練習をしていた。大津あきのた会との団体戦では、お互いの克服すべき点を言い合いながら切磋琢磨している姿を見ることができた。

競技かるたは基本的には個人競技のため、自分との戦い・自分の限界への挑戦が魅力のひとつである。かるた班主将の平尾勇人さんは、「諦めない心の強さ」を学んだと言っていた。このようにかるたを通して自分と向き合いながら成長しようとする姿にも、自主と自立の姿を感じることができた。

「かるたの聖地」へ全国から

近江神宮前駅の名所と言え、なんとと言ってもその名の通り近江神宮である。

駅を出て山側を坂本方面に向かって歩いて行くと7分ほどでたどり着く。大津宮を営んだ天智天皇を祀った広大な神社で、1940（昭和15）年に、皇紀2600年を記念して設けられた。したがって、決して古い神社ではなく建物の様式は近江造という新しいもので、本殿は登録文化財である。

この天智天皇は、日本で初めての時計を作らせたというユニークな功績を残している。これは「漏刻」という水時計であり、このことから近江神宮の中には「時計館」が設けられ、古今東西約100点の珍しい時計が常設展示されている。



近江神宮楼門



今年のかるた甲子園（団体戦）の様子

途中下車の小さな旅

近江神宮前駅かいわい

また境内を歩いていると、今話題のアニメ「ちはやふる」の看板が、「大津で『かるた』に恋をする。」というフレーズと共に迎えてくれる。近江神宮と言えば、毎年夏に行われる、「全国高等学校 小倉百人一首かるた選手権大会（通称『かるた甲子園』）」でも有名だ。「百人一首」といえば、競技かるたや坊主めくりが有名である。しかしそもそも、鎌倉初期の有名な歌人である藤原定家が、山荘の障子に貼る色紙の執筆を依頼され、色紙の一枚一枚に古今の優れた歌人の作を一首ずつ書いたのが、後に百人一首になったと言われている。な

んと百人一首は約半分の43首が恋の歌なのだ。

今年は7月28日（土）に団体戦、29日（日）に個人戦が行われた。団体戦は近江神宮・近江勤学館で開催。全国から43校が出場し、一度負けたら終わりのトーナメント戦が行われた。5人対5人で対戦し、多く勝った学校が勝ちあがれるのだが、各校はオリジナルTシャツを着て試合に挑んでいた。試合を見守る人で会場は埋め尽くされ、すごい熱気を放っていた。一首詠まれる毎に、仲間同士が声をかけあう姿、札をはたく姿は、まるでスポーツの試合のようであった。今年は、東京都代表の「私立暁星高等学校」が5年連続7回目の優勝を決めた。

個人戦は近江神宮・近江勤学館と滋賀県立武道館で開催。武道館の場合だと一度に約100人で試合が行われ、団体戦とはまた一味違う雰囲気があった。選手のレベルによって階級が分かれており、自分の力を試し限界に挑戦する姿をみてとることが出来た。しかし団体戦のように声を掛け合う姿はなく、孤独な感じも受けた。

皆さんも近江神宮前駅で一度降りてみてください。いつもと違う世界が体験出来るかもしれませんよ。

愛する会のイベント 今年もかるた大会

大津の京阪電車を愛する会は、11月4日（日）に、かるたの聖地「近江神宮」で「ちはやふる」の複製原画



展の見学や境内の散策とかるた大会を開催します。景品もあります。詳しくはホームページまたは事務局へお問い合わせください。写真は昨年の大会の様子。

大津の京阪電車を愛する会 会員募集中！

「大津の京阪電車を愛する会」は貴重な公共交通機関である京阪大津線の利用促進を図ることを目的として、平成17年11月に設立された市民団体です。電車内や京阪沿線で行う各種イベントを通して京阪電車にふれあう機会をつくり、利用促進を図る活動を行っています。皆さんも本会と一緒に京阪電車大津線を支えていきませんか？

入会方法

- 入会は1口2,000円です。
- ご住所、ご連絡先を電話（077-528-2736）、FAX（077-521-0427）にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙をお送りさせていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

会員特典

- ☆1口（2,000円）につきA、Bいずれかの乗車券がついてきます。
 - A. 一日乗車券（500円相当×2枚）
 - B. 普通乗車券綴り（160円区間×6枚）
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内等を定期的にお送りします。



申込用紙は京阪大津線各駅に設置しています。郵便番号・住所・氏名・連絡先を記入してください。郵便局で振込んでください。

大津の京阪電車を愛する会

<http://www10.ocn.ne.jp/~ok-love>

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津4丁目1-1
「明日都浜大津」1階 市民活動センター内
TEL/FAX：077-523-6238
（事務局は、土曜日の午後1時～4時に開いています）

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1
大津市建設部交通・建設監理課
TEL：077-528-2736 FAX：077-521-0427